

# 地域連携室だより

第21号 令和3年8月 発行

残暑お見舞い申し上げます。

日頃より、地域連携室をご利用頂きありがとうございます。 今月は、看護部門のご紹介です。

看護部長 島川 夏代

令和3年4月より看護部長を拝命致しました、島川夏代と申します。

小千谷総合病院には開院時から勤務しておりましたが、昨年1年間、柏崎総合医療センターへ転勤になり、地域の中での病院の役割や機能が違うことを感じてきました。

4月より小千谷総合病院へ戻り、再び地元の医療に携われることを嬉しく思っております。

当院は小千谷地域の中核病院として、「いつでも誰もが安心して受診できる病院」を目指しています。

それを支える看護として、「温かな心のこもった看護の実践」を看護部の理念としています。

看護ケアを自ら考え、患者さんにとって最適な看護をチームで実践できる看護師の育成を目指しています。

さらには、思いやりの心と謙虚な気持ちで看護を提供し、地域の皆様から信頼される看護部を目指していきたいと思っております。 今後も地域の医療機関の皆様と連携を図り、地域における病院の役割を果たしていけるよう努めていきますので宜しくお願い致します。

思いやりの心と  
謙虚な気持ちを  
大切にしています。



澤中副看護部長 島川看護部長 平澤副看護部長

副看護部長 平澤 陽子

令和2年度より、副看護部長の任を頂き、看護教育を担当しております、平澤陽子と申します。

当院の教育目標は、「看護部の理念に基づき、温かな心のこもった看護が行えるよう専門的知識・技術を身につけ患者中心の看護ができる、自律した看護師を育てる」です。

新型コロナ感染症拡大により、新人研修、現任研修、看護介護補助者研修など、厚生連全体の看護教育研修もリモート研修へと変化しています。新しい時代の到来を実感しつつ、看護部教育目標の実現に向け取り組んで参りたいと思っております。

副看護部長 澤中 直美

令和3年4月から副看護部長と医療安全管理者となりました澤中直美と申します。

当院の医療安全活動は、各職場の医療安全委員と院内ラウンドを中心に活動をしています。その内容は、インシデント報告の現場や薬剤に関する安全ラウンド、転倒転落ラウンドとそれぞれの視点で実施しています。インシデントの実態から対策を確認する事で、評価や自部署でのさらなる気づき、他部署・多職種からのアドバイスを受け、より良い安全対策に繋げていきたいと取り組んでいます。

## 地域包括ケア病棟 ～5階西病棟・4階西病棟～

地域包括ケア病棟は、急性期治療を經過し病状が安定した患者さんに対して在宅や介護施設への復帰支援に向けた医療や支援を行う病棟です。



5階西病棟では、患者さんの状態・状況に合わせた退院支援のため、入院時から退院にむけての関わりを持たせて頂いています。患者さんが心身共に、回復するよう医師、看護師、病棟専従のリハビリテーションスタッフ等により在宅復帰に向け治療・支援を行っています。また病棟専従の相談員が患者さんの退院支援、退院後のケアについてサポートさせて頂いています。



談話室でのリハビリ風景



患者さんと向き合うリハビリ



安全に入浴できる浴槽

4階西病棟は、耳鼻咽喉科、眼科、小児科、産婦人科の手術、分娩、出産にかかわる母子の健康支援や内科、外科の急性期治療を經過し安定した方の支援をしている病棟です。



田園風景を眺める  
プレイルーム。  
子供たちが健やかに  
成長しますように!



## 障害者病棟 ～4階東病棟・5階東病棟・6階西病棟～

今年度障害者病棟が増え、151人の患者さんを受け入れることが出来るようになりました。障害者病棟は、急性期の治療を終えた患者さんが、リハビリなどの長期療養を行いながら、自宅や施設へお戻りになれるよう支援している病棟です。入院患者さんの多くは、肺炎、摂食機能低下、脳疾患後遺症、ターミナル期、看取りの方などです。患者さんやご家族様に安心して頂けるよう、スタッフ一人ひとりが「もしも自分だったら、自分の家族だったら」を念頭に援助しています。

「声かけて  
手をかけて  
心を尽くす看護」



「この病棟に入院して良かった」と実感して頂けるように努めております。



## 急性期一般病棟 ～6階東病棟～

6階東病棟は、急性期一般(外科・整形外科・内科の混合病棟)です。手術や検査、内科の急性期治療を行い、時には人工呼吸器を装着する重症患者さんや、人生の終末期を迎える患者さんも入院されます。



「安全で安心して入院生活が送れるよう」チーム全体で、日々考えながら看護を提供しています。そして治療を終えた患者さんがスムーズに退院して頂けるよう、地域包括ケア病棟や障害者病棟と連携し、患者さんやご家族様の意向を確認したうえで、多職種連携・カンファレンスを実施しています。

## ～人工透析センター & 十日町診療所透析室～

腎臓に代わって人工的に身体の血液を浄化する働きを代行する方法が透析療法です。生涯にわたって透析治療を受け、自己管理しながら生活している患者さんに寄り添い、互いに信頼関係を築きながら、患者さんの生活のサポーターとなれるよう努めています。



透析病床： 小千谷総合病院 45床  
十日町診療所 55床

十日町診療所と連携し透析を行っています。



## ～外来～

7つの外来ブロックがあり、スタッフ一同、患者さんが安心して受診できるように心がけています。内視鏡室では、消化器内科医師4名、内視鏡認定技師有資格看護師4名がおり、胃・大腸内視鏡検査やESDやERCPなどの治療を行っています。



## HOPE LifeMark-コンサルジュ導入

外来待ち時間対策として、患者さんのスマートフォンと病院の予約システムを連携し、自動再来受付や診察状況のお知らせ・予約の確認や取得ができるシステムを取り入れております。



## ～手術室の紹介～

外科、整形外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、内科(透析・循環器・消化器)、皮膚科の手術を行っています。手術室は4室。バイオクリーン室では、人工関節手術などを行っています。専門知識と熟達した技術、倫理観を持ってチームワークを大切にしています。患者さんが安心して手術を受けられるようにサポートしていきます。

(☎) > < (☎) ♡



清潔な手術室フローア



# 令和3年度 第1回

## 入退院支援勉強会を開催しました!

地域連携支援部 マネージャー(主任社会福祉士) 船越 愛

日時 : 令和3年7月9日(金) 18:30 ~ 20:00

方法 : ZOOM使用したWeb方式

参加者 : 104名 (35カ所)

演題 : 「つばめ・やひこ入退院連携ガイドを通して深まる連携」

講師 : 弥彦村地域包括支援センター

管理者 主任介護支援専門員 社会福祉士 小林 千恵子 様

燕・弥彦医療介護センター

副センター長 看護師 伊藤 理加 様

小千谷市在宅医療・介護連携支援センターでは、小千谷市在宅医療介護連携協議会、小千谷市医師会と協働し、小千谷地域の入退院支援の充実に取り組んできました。今回は、地域の入退院支援の仕組みを通し医療と介護の連携を深めている燕・弥彦地域の取り組みを燕・弥彦医療介護センターよりご講演いただきました。小千谷地域のみならず長岡地域の医療介護関係機関の皆様にもご案内差し上げたところ、たくさんのご参加をいただき、ありがとうございました。今後は「入退院支援における仕組みづくりと連携推進」を目標に行政・地域の医療関係機関の皆様と共に取り組んでいきたいと思っております。よろしく願い致します。

### ～当院の患者サポートセンターの役割～

患者サポートセンターでは、①病床管理(転院調整) ②地域連携 ③入退院支援 ④医療・福祉相談などを行っております。

病気に関する不安、生活上の不安など、様々な相談内容に応じ、適切な職種が対応できるよう努めております。また開業医の先生方との在宅療養連携病院として体制を整え、緊急時における迅速な対応、24時間体制の後方支援を行っております。今回の研修会での学びを活かし、多職種が協働し、患者さんやご家族の思いを繋げていけるよう支援して参ります。今後ともご支援を賜りますようお願い致します。

### 編集後記

コロナ禍での東京オリンピック開催。

スポーツのすばらしさに感動しつつも、新型コロナウイルス感染者の増大に不安がつのります。

これからも地域の皆様との絆を深め、不安な社会を乗り越えたいと思っております。

